Report

リアルタイム配信への挑戦に手応えと課題

ONLINE

ひまわりホールは「無観客上演に限る」という条件付きで、10月1日より会館利用を再開しました。愛知人形劇センターとして無観客上演の可能性を探るため、もともと10月・12月に共催公演を予定していた「ラストラーダカンパニー」「人形劇団むすび座」の2劇団に依頼し、配信サービス「ツイキャス」を利用した無観客配信公演を実施しました。

無観客上演の環境を整えるため、ホールにはインターネット回線が開通し、配信に必要な機材も導入されました。これらは今後、貸館利用者も使用できます。

2020年12月4日に上演したラストラーダカンパニー『竜潭譚』は、泉鏡花の原作を木村繁氏の台本・演出により舞台化した作品です。三味線語りで進行する物語に、球体関節人形で作られた主人公"ちさと"と、虫から花まで変幻する身体表現とが重なり合って表現されます。演者3名と人形とオブジェクト、いずれも目が離せない舞台表現をいかに映像で伝えるか、カメラワークにも試行錯誤がなされました。生配信後には出演者、スタッフによるアフタートークも行い、コメント欄には多くの感想も寄せられました。

12月6日に上演した人形劇団むすび座『あかちゃんゴリラのゴリゴリ』は、赤ちゃんゴリラの成長を描いた子供向けの30分作品です。むすび座にとっても初の生配信の挑戦で、「子供の目線」を意識し、細やかな人形の表情や動きにも注目したカメラワークにて配信しました。『竜潭譚』と比べるとチケット購入数が伸び悩み、子供向けとインターネット配信の相性の難しさを感じました。

同じ作品でも観客への届き方が違えば、適した表現方法も変わってきます。今回のトライアル公演を通して、生での舞台と、無観客での配信映像はやはり別々のものだと痛感しました。そしてスタッフのみの客席と、画面越しでしか観客を感じられない寂しさもあり、早くひまわりホールにお客様を迎えられる日が戻って欲しいと願います。

愛知人形劇センター理事　佐和ぐりこ

ラストラーダカンパニー『竜潭譚』

人形劇団むすび座『あかちゃんゴリラのゴリゴリ』

P新人賞、節目の10回目も敢行!
対策万全で新進気鋭が大競演!!

P新人賞の「P」とは、人形劇（PUPPET）のP、オブジェ + 身体によるパフォーマンス（PERFORMANCE）の「P」です。
人形劇ジャンルの明日を担う斬新な才能を発掘するために開催され、今年で10回目を迎えます。
P新人賞2020は、10団体・個人からの応募があり、吉田薫、宮田直人、劇団野らぼう、
以上の3団体・個人が最終選考上演会へ進むことになりました。
P新人賞最終選考上演会は、2021年2月20日（土）・21日（日）の2日間、
損保ジャパン人形劇場ひまわりホールにて開催されます。
最終選考上演会では、21日終演後に選考委員ディスカッションによりP新人賞1作品を、
観客の皆さんによる投票（20日終演後～21日終演後、特設サイトにて実施）で観客賞1作品を決定します。
今回は、新型コロナウィルス感染拡大の影響で、ツイキャスを利用して、
リアルタイム無観客配信にて開催します。

P新人賞2020
最終選考上演会

2021年
2月20日（土）19:00
21日（日）14:00
ツイキャスプレミア配信

※アーカイブ配信3月6日（土）まで。
※最終選考会は21日終演後に開催。
料金1,500円（2回公演＋最終選考会＋アーカイブ視聴有効）
損保ジャパン人形劇場ひまわりホール

ツイキャス配信チケット購入方法

▶生配信
キャスマーケットにてチケットを購入
購入したアカウントでツイキャスにログイン
以下のライブページよりご視聴いただけます
https://twitcasting.tv/c:aichi_puppet/shopcart/33270

▶アーカイブ
3月6日（土）まで配信!
キャスマーケットにてチケット購入
購入したアカウントでツイキャスにログイン
【公式ストア】の【購入履歴】から公開中の録画の視聴ページを開く

劇団野らぼう
（長野県）
『あの日から彼は私のことを しげると呼ぶようになった』

2020年5月に公演を予定していた作品です。しかし当然のことのように公演は延期になり、この作品の上演も一時は諦めましたが、刻々と流れる時間の無情さに、できる限りの感染症対策を講じて上演しようと、屋外にビニール幕を張り巡らせて公演したのが2020年の6月でした。その時は感染症完全対応版。そして今回はライブ配信観劇版として再び皆さんの前に登場します。前作を観た方も今回初めての方もこの配信を見逃すな!

PROFILE
長野県松本市を拠点とする劇団（前身:野外人形劇団のらぼう）。主に屋外で活動を行い、松本市の公園で春と秋に作品を上演している。また様々な状況に合わせた上演を得意とし、駅前朝芝居や音声はインターネット上で聞く音声同期型サイレント芝居、夜の飲み屋を巡回する流し芝居などを独自に生み出して活動している。3メートル級の人形を制作した過去作もあり、人形を含めた表現の探求を行ってきた。2021年はテント劇場で公演予定。

吉田薫
（東京都／所属:公益財団法人すぎのこ芸術文化振興会）
『神様の器』

たゆたう水の自由を恨んだ人魚姫の恋も、身を焦がす想いを火に例えたおとも、満開の桜が目を奪うようなおかしいさんも。私たちが何時もつむいでいる物語は、水があってこそ、火があってこそ、木があってこそ、人があってこそ、生活があってこそ、音楽があってこそ、そして、土があってこそ生まれたのだと思うのです。これは「土」って楽しいと気づいた、私の泥遊びの記録です。

PROFILE
公益財団法人すぎのこ芸術文化振興会／1964年、故・小澤明により旗揚げ。「どんな離島山間僻地小規模施設の子ども達にもナマの舞台の感動を届けよう」という思いのもと、全国の幼稚園・保育園への巡回公演を主とした人形劇団。今年創立56年。
吉田薫／秋田県出身。短大の幼児教育学科に通いながら、声優の養成所で芝居について学ぶ。短大卒業と同時に幼稚園教諭2種免許取得。2016年劇団すぎのこ入団。

宮田直人
（大阪府／ジャグリング・ユニット・フラトレス）
『fratres -Solo Act-』

ジャグラーを「扱えるものの数と、動かし方が多い人」として捉え、"技術力"を発揮するために最適化された物体（ジャグリング道具）が、その特性を残しつつ流動的にシンプルなら意味を持っていく。技術視点でのオブジェクトシアターの発展を目指した短編作品です。
ジャグリングが幅広く舞台で活躍できるきっかけの一つにと。

PROFILE
ジャグラー／作・演出家として舞台を中心に活動。様々なジャグリングのコンペティションで優勝・準優勝などの成績を収める。自身が出演する傍ら、イベント企画やワークショップ講師、舞台アドバイザー等、幅広く活動し、多方面からジャグリング界を支えている。また、舞台公演団体「ジャグリング・ユニット・フラトレス」の代表・作・演出を務め、ジャグリングを舞台美術として彩る新しい作品作りを行っている。